

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月8日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社理経
【英訳名】	RIKEI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 黒田 哲夫
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号
【電話番号】	03（3345）2153
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 長谷川 章詞
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号
【電話番号】	03（3345）2153
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 長谷川 章詞
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第2四半期連結 累計期間	第56期 第2四半期連結 累計期間	第55期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(千円)	4,139,926	3,160,106	8,553,906
経常利益又は経常損失() (千円)	73,809	38,925	342,982
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失()(千円)	54,465	45,755	297,248
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	32,244	68,990	325,602
純資産額(千円)	3,777,374	3,956,233	4,070,698
総資産額(千円)	6,972,178	6,454,661	7,000,445
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額()(円)	3.60	3.03	19.65
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	54.2	61.3	58.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	435,328	525,152	82,088
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	78,575	397,879	75,790
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	50,034	245,474	50,067
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	2,151,990	3,190,592	2,509,326

回次	第55期 第2四半期連結 会計期間	第56期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.74	4.47

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第55期第2四半期連結累計期間及び第55期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第56期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、復興需要の本格化が景気を押し上げた一方、欧州債務危機、新興国経済の一段の減速、円高による輸出低迷などわが国の経済を取り巻く外部環境が厳しい中、依然として景気は下振れリスクを抱えた不透明な状況が継続しております。

このような環境下、当社グループは、業績の更なる向上を最優先課題として掲げ、損益面の改善に向け、高収益案件の受注及び新たな顧客創造に日々努めるとともに、システムソリューション事業の強化、多様化するビデオ視聴技術の提案、緊急時対応システムの拡販、特殊部材の販売強化及び高機能部品の開発等の戦略に基づき、経営資源を集中した事業運営に努めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、連結売上高は31億6千万円（前年同期間比23.7%減）となりました。損益面では高収益案件の獲得に努めたことにより売上総利益率は改善致しましたが、営業損失は3千4百万円（前年同期間は8千4百万円の営業利益）、経常損失は3千8百万円（前年同期間は7千3百万円の経常利益）、四半期純損失は4千5百万円（前年同期間は5千4百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

システムソリューションにおきましては、大学・研究機関向けシステムが減少し、売上高は10億3千8百万円（前年同期間比27.8%減）、営業損失は1億2百万円（前年同期間は3千3百万円の営業損失）となりました。ネットワークソリューションにおきましては、前年好調に推移した映像配信システムの需要が一段落し、売上高は6億2千万円（前年同期間比33.3%減）、営業損失は7百万円（前年同期間は9千8百万円の営業利益）となりました。

また、電子部品及び機器におきましては、海外子会社RIKEI CORPORATION (SINGAPORE) PTE. LTD. 清算手続き開始に伴い、海外における電子部品販売が減少し、売上高は15億円（前年同期間比15.3%減）となりましたが、高収益案件の受注に努めた結果、営業利益は7千5百万円（前年同期間は1千9百万円の営業利益）となりました。

なお、セグメント間取引については、相殺消去しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より6億8千1百万円増加して31億9千万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間においては、5億2千5百万円の増加（前年同四半期は4億3千5百万円の減少）となりました。

これは主に税金等調整前四半期純損失3千8百万円の計上、仕入債務の支払いによる1億6千3百万円の減少、売上債権では前連結会計年度末において計上した大口の債権が入金したことによる7億6千5百万円の増加があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間においては、3億9千7百万円の増加（前年同四半期は7千8百万円の増加）となりました。

これは主に、預金担保解除に伴う定期預金払い戻しの収入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間においては2億4千5百万円の減少（前年同四半期は5千万円の減少）となりました。

これは主に、営業活動のキャッシュ・フローにおいて大口の債権の入金があったため短期借入金を圧縮したことによる純減額2億円、及び配当金の支払4千5百万円の支出によるものであります。

(3) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は64億5千4百万円（前連結会計年度末比5億4千5百万円減少）となりました。これは主に受取手形及び売掛金が7億7千5百万円減少したこと、現金及び預金が2億8千1百万円増加したことによります。

負債の合計は、24億9千8百万円（前連結会計年度末比4億3千1百万円減少）となりました。これは主に支払手形及び買掛金が1億6千8百万円減少したこと、短期借入金の返済により2億円減少したことによります。短期借入金については、従前は現金及び預金（定期預金）をも担保に供しておりましたが当第2四半期連結会計期間末においては、全額担保解除しております。

純資産の合計は39億5千6百万円（前連結会計年度末比1億1千4百万円減少）となりました。これは主に配当金の支払4千5百万円と四半期純損失4千5百万円の計上によります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 生産、受注及び販売の状況

当第2四半期連結累計期間において、販売の実績に著しい変動がありました。その内容については「(1)業績の状況」をご参照下さい。

(7) 資本の財源及び資金状況の流動性についての分析

資金需要

当社グループの運転資金需要のうち、主なものは、商品の購入及び人件費、賃借料等によるものであります。

資本の財源

当社グループにおける増加運転資金につきましては、内部資金及び金融機関からの借入等によって調達しております。なお、運転資金の安定的及び効率的な調達を行うため、親会社におきまして金融機関との間に借入枠を設定しております。また、従来、現金及び預金（定期預金）に付しておりました担保については、当第2四半期連結会計期間末において全額担保解除しております。なお、金融機関との間の取引は引き続き良好に維持しております。

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの分析につきましては、上記(2)キャッシュ・フローの状況に記載しているとおりであります。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、社会変革を先取りした発想と先端技術で、お客様のニーズに対応したソリューションを提供し、高度情報化社会へ貢献するとともに、その活動にあたっては、法令遵守、経営資源の有効活用と収益性向上により企業価値を高めていくこと、並びに環境マネジメントシステム国際規格「ISO14001」の認証（審査登録）を受け、地球環境保全に積極的に取り組むことを、経営の基本方針としております。IT業界に位置する当社グループは、産業構造、市場、技術、販売手法等あらゆる面での急激かつ大きな変化に直面するものと認識しており、これに備え外部環境に左右されない企業体質作りに努めるとともに、当社グループ独自の付加価値を生み出す新規製品の市場投入を行い、事業の拡大を図る所存であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	55,000,000
計	55,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,514,721	15,514,721	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数500株
計	15,514,721	15,514,721	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	15,514,721	-	3,426,916	-	615,043

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
石川 理香	東京都杉並区	1,308	8.43
石川 道子	東京都杉並区	740	4.77
石川 忠造	東京都杉並区	586	3.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	466	3.00
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	465	3.00
カシオ計算機株式会社	東京都渋谷区本町1丁目6番2号	420	2.70
青柳 勝栄	東京都杉並区	285	1.83
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	273	1.76
高野 正子	千葉県船橋市	246	1.58
理経従業員持株会	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号	204	1.31
計	-	4,995	32.20

(注) 当社は上記のほか、自己株式390,819株を所有しております。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 390,500	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数500株
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,991,000	29,982	同上
単元未満株式	普通株式 133,221	-	-
発行済株式総数	15,514,721	-	-
総株主の議決権	-	29,982	-

(注)「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式が319株含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 理経	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号	390,500	-	390,500	2.51
計	-	390,500	-	390,500	2.51

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,009,326	3,290,592
受取手形及び売掛金	2,422,090	1,646,423
商品及び製品	181,609	122,166
その他	337,046	367,458
貸倒引当金	234	3,424
流動資産合計	5,949,838	5,423,216
固定資産		
有形固定資産	454,267	440,704
無形固定資産	5,584	5,072
投資その他の資産	590,754	585,666
固定資産合計	1,050,607	1,031,444
資産合計	7,000,445	6,454,661
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,339,019	1,170,194
短期借入金	700,000	500,000
未払法人税等	23,538	13,521
その他	504,425	466,431
流動負債合計	2,566,984	2,150,146
固定負債		
退職給付引当金	211,619	215,709
その他	151,142	132,570
固定負債合計	362,762	348,280
負債合計	2,929,746	2,498,427
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,426,916	3,426,916
資本剰余金	615,043	615,043
利益剰余金	238,214	147,083
自己株式	111,392	111,491
株主資本合計	4,168,782	4,077,552
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,674	12,200
繰延ヘッジ損益	54	1,137
土地再評価差額金	11,613	11,613
為替換算調整勘定	102,199	120,767
その他の包括利益累計額合計	98,083	121,318
純資産合計	4,070,698	3,956,233
負債純資産合計	7,000,445	6,454,661

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,139,926	3,160,106
売上原価	3,116,208	2,292,597
売上総利益	1,023,717	867,508
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	461,349	458,369
退職給付費用	29,205	24,520
貸倒引当金繰入額	-	3,276
その他	448,607	415,730
販売費及び一般管理費合計	939,162	901,897
営業利益又は営業損失()	84,554	34,388
営業外収益		
受取配当金	777	777
受取賃貸料	933	1,222
その他	1,746	1,162
営業外収益合計	3,457	3,162
営業外費用		
支払利息	7,231	3,821
保険解約損	-	1,786
為替差損	4,448	1,296
その他	2,523	794
営業外費用合計	14,203	7,699
経常利益又は経常損失()	73,809	38,925
特別利益		
固定資産売却益	179	-
特別利益合計	179	-
特別損失		
退職給付制度終了損	14,952	-
特別損失合計	14,952	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	59,036	38,925
法人税、住民税及び事業税	4,570	6,829
法人税等合計	4,570	6,829
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	54,465	45,755
四半期純利益又は四半期純損失()	54,465	45,755

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	54,465	45,755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,747	3,474
繰延ヘッジ損益	951	1,192
為替換算調整勘定	16,424	18,568
その他の包括利益合計	22,221	23,235
四半期包括利益	32,244	68,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,244	68,990
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	59,036	38,925
減価償却費	18,452	14,635
受取利息及び受取配当金	1,048	1,025
支払利息	7,231	3,821
退職給付制度終了損	14,952	-
売上債権の増減額(は増加)	541,390	765,762
たな卸資産の増減額(は増加)	157,611	56,974
前渡金の増減額(は増加)	73,432	73,014
その他の流動資産の増減額(は増加)	72,707	38,876
仕入債務の増減額(は減少)	76,373	163,124
その他の流動負債の増減額(は減少)	73,674	56,839
その他	27,886	4,743
小計	423,167	542,396
利息及び配当金の受取額	1,049	1,025
利息の支払額	7,172	4,737
法人税等の支払額	6,037	13,532
営業活動によるキャッシュ・フロー	435,328	525,152
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	11,494	2,423
有形固定資産の売却による収入	179	-
無形固定資産の取得による支出	2,050	-
保険積立金の積立による支出	2,442	1,628
保険積立金の解約による収入	-	1,215
差入保証金の差入による支出	1,170	64
差入保証金の回収による収入	111,785	779
定期預金の預入による支出	500,000	100,000
定期預金の払戻による収入	500,000	500,000
その他	16,232	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	78,575	397,879
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	50,000	200,000
自己株式の純増減額(は増加)	34	99
配当金の支払額	-	45,375
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,034	245,474
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,353	3,708
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	414,140	681,265
現金及び現金同等物の期首残高	2,566,130	2,509,326
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,151,990	3,190,592

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる影響額は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	2,651,990千円	3,290,592千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	500,000	100,000
現金及び現金同等物	2,151,990	3,190,592

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	45,375	3	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	システムソ リューション	ネットワ ークソリ ューシ ョン	電子部品及び 機器			
売上高						
外部顧客への売上 高	1,437,755	930,976	1,771,194	4,139,926	-	4,139,926
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,784	33,981	756	36,522	36,522	-
計	1,439,539	964,958	1,771,950	4,176,448	36,522	4,139,926
セグメント利益又は 損失()	33,398	98,155	19,798	84,554	-	84,554

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	システムソ リューション	ネットワ ークソリ ューシ ョン	電子部品及び 機器			
売上高						
外部顧客への売上 高	1,038,408	620,803	1,500,893	3,160,106	-	3,160,106
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,217	22,596	821	24,634	24,634	-
計	1,039,625	643,399	1,501,714	3,184,740	24,634	3,160,106
セグメント利益又は 損失()	102,473	7,816	75,901	34,388	-	34,388

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	3円60銭	3円03銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	54,465	45,755
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	54,465	45,755
普通株式の期中平均株式数(千株)	15,125	15,124

(注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

株式会社理経
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 伸太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 裕司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社理経の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社理経及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。